

以下は、授業後の生徒に対するアンケート調査結果の一部である。

観察・実験の計画を立て、事前に予備実験を行った生徒が先生のように指導や助言を行うことについてどう思いますか。

- ・一生懸命教える態度がよい
- ・生徒が主体的に取り組むのでよい
- ・責任感が出てきた

など、肯定的な回答………32名(39名中)
このような方法を今後も継続して欲しいですか。

- ・欲しい………37名(39名中)
- このような観察・実験は楽しいですか。
- ・楽しい………32名(39名中)

6 学んだものを生かす場面を取り入れた指導 (中学校・理科・3年)

「活動する大地」の単元の学習が終わった後で、学んだものを基に自然事象の中に課題を見つけ出させ、班をつくって調べさせる発展学習を行わせた。

〈生徒が選んだ課題〉

「会津の昔の地震調べ」

「磐梯山の噴火について」

「地震計を作る」

「阪神大震災と関東大震災との比較」

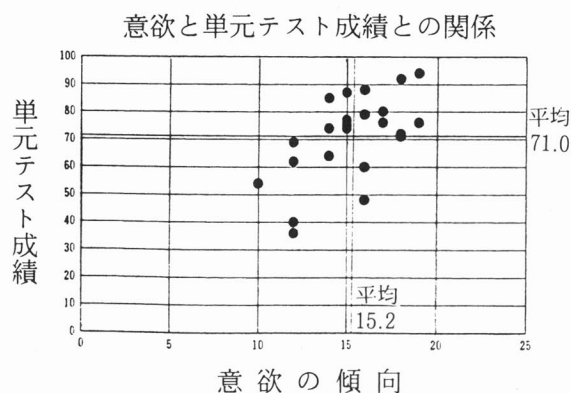
など、合計9テーマ

学習のすぐ後で、予備知識を持って取り組んだため生徒の関心は高く、活動も意欲的だった。

また、発展学習の後での単元テストの成績もよく知識・理解の定着の面でも効果があった。

次の図は、課題への取り組みの意欲の傾向と単元テストの関係を調べたものである。両者の

相関係数は0.60と高く、意欲的に取り組むことができた生徒ほど成績もよいことがわかった。



III まとめ

これらの実践から、意欲的に学習に取り組むことができた児童・生徒ほど知識・理解の定着もよいことが明らかになった。

また、児童・生徒の学習意欲を持続させるためには次のようなことがポイントになることがわかった。

○ 授業は教師と個々の児童・生徒との間の信頼関係の基に成立するものである。この信頼関係の基に、児童・生徒の思いや願いに応えるような形で授業が行われるとき学習意欲は高まってくる。従って、学習意欲を持続させるためには、教師は常に、児童・生徒の支援要求に応える姿勢を持って個別に支援しながら授業を進める必要がある。

○ 学習内容が「わかった」、「できるようになった」とときには、よろこびと同時に意欲もわくものである。その意欲を持続させ自主的な学習に取り組ませるためには、この単元を何のために学ぶのかという学習することの意味を理解させたり、新たな課題解決のために学んで得たものが役に立つという体験をさせたりすることが必要である。